谷津ミュージアム事業推進専門家会議　会議の概要

１　会議の名称

平成３０年度 第１回谷津ミュージアム事業推進専門家会議

２　開催日時

平成３０年７月１０日㈫　午後２時００分から午後５時００分まで

３　開催場所

我孫子市都部６11 番地先　岡発戸・都部谷津ミュージアム作業小屋

４　出席した委員

（出席委員）

浅間　茂　　谷城　勝弘　　松下　直子　　根本　正之

５　欠席した委員

（欠席委員）

平岡　考

６　出席した事務局

（事務局）

鷹屋次長　倉島課長補佐　濱田

７　会議に付した事項等

○　谷津ミュージアム視察

８　公開・非公開の別

公開

９　傍聴人

３名

１０　会議の内容

＜現地視察後の各委員からの意見＞

浅間委員長：千葉県内においても谷津ミュージアムにあるような当たり前の田んぼが非常に少なくなってきているように感じる。自然の田んぼが少なくなり、多くの場所では用水路がコンクリートで固められ、カエルもいない環境が増えているが、カエルが行き来するような用水路があるからこそトウキョウダルマガエルが増えている。当たり前の田んぼが当たり前ではなくなっている状況の中、我孫子市と市民ボランティアの方々が協同でこれだけ維持することが出来るのは非常に素晴らしいことである。残すところは残し、伐採するところは伐採するといったアイディアを出し合いながら行うことでより良くなるのではないか。しかし、多くの場所の草刈りを行うことは動物にも多くの影響が出る。そのため、基本的には人が通るところは草を刈り、周りを刈る場合にはどういう目的で草を刈るのかをはっきりさせるため、話し合いながら進めていくと良い。また、思いきって半分ぐらい刈ってから草が生えてくるのを待つというやり方でも良い。

田んぼの状況は非常に良い状態であると感じた。草取りなどの維持管理を人力で行っているからこそ、カエルやホタルが出る。他にはこれだけ多くのカエルやホタルが出るところはないため、我孫子市はもちろんのこと、千葉県の宝であると感じた。

根本委員：ボランティアの方々の参加の年齢が 70 歳になってからの参加が多いということで、今後、維持管理をしていく上で我孫子市での課題となる。そのため、子供たちへのアピールということで我孫子市の教育委員会と連携していくことが必要であり、近隣の小学校だけではなく、我孫子市全体の小学校と連携し、子供たちや教員の方々を巻き込んで谷津に携わっていく機会を増やしていくと良いと考える。

維持管理のための草刈りは３つの基本がある。

１　刈る高さ
２　いつ刈るか
３　回数

この３つのバランスを取ることが大切である。バランスを上手にコントロールしなければ藪になってしまう。バランスを上手にコントロールすることが出来れば、谷津らしい景観が戻ってくる。

最初に刈る高さについて。刈る高さも高刈り、低刈り、地際刈りの刈り方があり、どの刈り方がいいのか。地際刈りで本当に綺麗に刈ってしまうのが良いのかは問題である。時と場合によって使い分け、多様性を意識して草刈りを行わなければならない。

次にいつ刈るかについて。ススキの場合では８月に刈ると翌年に出てくるスス

キのバイオマスは１／３になっている。また、秋や冬に１回ずつ刈ったとすると同じ高さで出てくる。８月に刈ることはススキに対するダメージが大きく、次の年は抑えることが可能。そのため、ススキが多くなってしまった際には夏に刈れば抑えことが出来る。刈り取る時期は非常に重要であるため、ボランティアの皆様に考えていただければと考えている。
最後に回数について。たくさん刈れば芝生のような植生になるし、刈り取り回数が少なければススキ型になる。アズマネザサにしてもネザサは刈り取りに対して強く、芝のようになるのに対し、アズマネザサは刈り取りすれば抑えられる。そのまま刈らずに妨害極相にするというのも１つであるが、刈らないでそのままにしていいのかという問題もある。
谷津ミュージアムにあった高さ、時期、回数を考え、実践していただきたい。
野草園に関しても谷津ミュージアムをミニチュアにしたような地形のところに作っていくとより良いものになるのではないか。

谷城委員：都会にはボランティアするのにお金を払ってでも参加して、体を動かしたいという人たちが多いという話をよく聞く。これだけ広い場所なので維持管理も大変であり、ボランティアの方々を集める方法はないものかと感じる。特に若い方に谷津ミュージアムの維持管理活動に参加してもらい、一緒に作業をしてもらう機会を増やして欲しい。
谷津ミュージアムは本当に良い場所であるが、今回、田や川の水を触るとぬるさにがっかりした。山の湧き水などは冷たいが、谷津ミュージアム内の至る場所の水がぬるかったのは少し残念だった。

松下委員：谷津ミュージアムはしっかりと維持管理されている場所だと改めて思った。
NEC でも無農薬で田んぼ作業を行っているが、田の草取りや水の管理など大変でもあり、難しいとも感じる。水はありすぎても困るなど水の管理や自分たちコントロールで出来るところと出来ないところの線引きも難しいと感じた。周りにこのような場所が少なくなっていく中、ホタルが出る場所でもあるため、谷津ミュージアムが残っていくことが非常に大事である。へびなども増えているようだが、一見怖いが、多様性があるという面では非常に良いのではないか。
市民ボランティアの皆様と行政との連携があるからこそ、良い状態が保たれているのではないかとも感じる。今後も良い場所として管理することで地域の宝になる。

＜外来のアカウキクサに対する意見＞

浅間委員長：個人的な考えでは除草剤を使うのではなく、排水して流してしまうのがいいのではないかと提案したが、皆様の意見を伺いたい。

根本委員：除草剤をかければ他の植物に影響が出てくるため、除草剤はやらないほうが良い。これからすごく増える可能性があるかもしれないが、現状を考えると、あの一部分の面積であれば、神経質になって駆除を行うこともないと考える。

谷城委員：オオキンケイギクを見つけたら抜く、アゾラが出たら除草剤で枯らすという必要は無く、外来のアカウキクサも含め、生物多様性であると考えている。とはいえ、遺伝子のかく乱という意味では多少の影響があるかもしれない。デスクライマックスやデッドセンターといった現象、捉え方もある。生物はある一定のところで調整する能力を持っているということこそが自然であり、偉大であると感じている。命あるものを粗末には出来ない。

浅間委員長：谷津ミュージアムらしさというものは大事であるため、できれば取り除くのが好ましい。害が無いのであれば除草剤までやる必要は無い。

谷城委員：アゾラについては分類が非常に難しいが、最初に見たものはアゾラヤポニカの在来種に非常に近いもので、後半に見たものは中央部の盛り上がりがあってアゾラクリスタータに非常に近いため、どれを絶やすのかの判断が難しい。果たして本当に外来のアカウキクサ類が悪さをしているのかどうかも正確には分からない。水田雑草が出なくて良いという意見もあり、見方もいろいろある。

＜傍聴人による意見＞

平原氏：水田も畑も維持管理として草刈りも谷津ミュージアム内で行っている。今年度は市民公募田んぼに例年以上の方が参加してくださっている。その中で女性やお子様には畑での作業を行っていただき、その際に収穫できた野菜を参加してくださった皆様に配布している。次への期待も持ってもらえるような工夫もしている。若い人が集まってくれるようにはなったが、まだまだ作業に携わってくれる人員の確保をしたい。谷津ミュージアムの会、会員が集まって作業する時は多い時で１５人、普通で１０名くらいであるため、今後は倍にしていきたいと考えている。また、本日、頂戴したお話を市と連携し、調整していきたいと考えている。

染谷氏：この２年間くらいは草刈りを行う回数を減らしたことでかつての谷津本来の姿が見えてきたと感じる。いたるところを草刈りするのではなく、委員の皆様がおっしゃったように、草を刈るところと刈らないところを決めていきたい。谷津ミュージアムの会、会員の高齢化に伴ってやれることからしっかり行っていきたい。また、後継ぎの準備も少しずつ始めていき、後継者を増やしていきたい。毎年、委員の皆様の御意見を聞きながら作業を進めていくと大きな間違いはないのではないかと強く感じた。

加藤氏：谷津ミュージアムの会は以前、積極的に作業を進めていくような会ではなかった。一昨年前から平原代表が谷津ミュージアムの会の代表となったことで、行政とのコミュニケーションを積極的に取れるようになってきた。積極的にコミュニケーションを取ることで共通の理解が高まり、何事に対してもうまく対応できるようになってきた。谷津ミュージアムの会が再編されて、いい意味でうまくいっているのかとも感じる。

以前から感じていた谷津ミュージアムに足りないものは谷城委員がおっしゃったように“水”と“人”である。谷津ミュージアムの会と行政が連携し、谷津ミュージアムにお越しになる方々と一緒に作業しながら“人”を育てていくことに力を注ぎたい。これからの行政の責任は“後継者を作ること”である。そのため、行政には“人員確保”に力を注いでいただきたい。

また、“水”に関しては今後、手賀沼から供給してくる水をどうするかというのが研究材料になるのではないかと考えている。

今後も何事に対しても行政と連携して、行っていきたい。

閉　会